

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム さくらんぼ チューリップユニット
所在地 (県・市町村名)	島根県 簸川郡 斐川町 今在家 403番地1
記入者名 (管理者)	飯塚 幸子
記入日	平成 21年 2月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	今後も、「利用者同士の和」「職員同士の和」「利用者職員との和」「ご家族との和」それぞれの和を大切にすることで信頼し合いながら日々のケアに取り組んでいきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	今後も、地域への広報活動は年に2回継続していきたい。ご家族への報告も継続していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	来年度は3～4ヶ月毎の頻度で左記の取り組みを行なっていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	今後の課題として、まずは苑内で検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度は1回ではあったが、ご近所の高齢者の方をお呼びし、手芸、お茶会を行なった。又、広報配布も行い、数名の方々より野菜を持ってきて頂いた事実がある。	○	来年度は3～4ヶ月毎の頻度で左記の取り組みを行なっていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年していただいた外部評価をもとに改善してきた内容は大きいにあると思う。又、自己評価をすることで、気づけなかった部分での改善に努めてきたと言える。	○	左記の通り、今後も継続していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に会議を行い、左記の通りの内容で行なってきた。又、そこでいただいたご意見は貴重な意見として受け止め、サービス向上に活かしてきたと思う。	○	今後は、今まで以上に議題を充実させ、又出席者の人数も少し増員を図り、更に活発な意見をいただける様努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外には、町で行なわれる事業者連絡会への出席のみであり、それ以外には特に行き来する機会はない。	○	運営推進会議以外にも、日頃より施設側から市町村担当者へと多方面にわたり意見を求める機会をつくってきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今年度の敬老会時において、ご家族と職員に対し、成年後見制度の研修をする予定をしていたが、講師の病気により、中止になり、できないままに至っている。	○	来年度は、敬老会時を利用しご家族、職員に対し研修を行なっていきたいと考えている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	左記については、会議等を通し日々伝えているので、職員は理解していると言える。	○	現状維持

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得していただけるよう充分説明していると考えている。又、解約についても、契約時に説明しており、解約時にも納得し退所していただいていた。	○ 現状維持
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からケアに携わっている職員や管理者にそれぞれの思い、不満、苦情は伝えられてきており、それに対する対応策も随時行なってきたと考えている。	○ 継続して行なっていくと同時に、さらに今後はご自分から発信できないご利用者に対しても、職員サイドから思いを表せていただけるケアの機会を設けていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1度左記については、各人のご家族に伝えると同時に面会の度にも状況報告はしている。	○ 左記の通り、今後も継続していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表せる機会は、現実的には運営推進会議が身近な場であるといえる。また契約時に契約書を通し外部へ表せる先の説明はしている。普段から面会やプラン更新時にはご家族に現状説明やご意見、意向をお聴きしケアに反映させてきたと考えている	○ 広報を通じ、運営推進会議への出席を募ってみたことが一度あるが、全く反応がなかった。来年度は広報へ運営推進会議で話し合った内容の掲載、また次回開催への出席依頼など、根気よく続けてみる努力をしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会くらいしか機会はないが、特に意見として出たことはない	○ 3年以上経過した職員も大半であり、左記について今後は活発な意見や提案が出しやすい雰囲気作りにも配慮していきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の状況により、カンファレンスを通し、職員の考えをふまえたうえで、職員の勤務時間を変更するなどし、ご利用者の安全、安心が図れる様対応してきた。	○ 現状維持
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時にはご利用者に事前にお話しし、又離職の際にはご利用者と一緒に送別会を行なうなどし、ご利用者に理解していただくよう配慮してきた。	○ 現状維持

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内での研修は、わずかな時間を利用しながらも何回か行なってきた。苑外研修については自主参加を促してきた事が多かったが、限られた職員のみであったが参加が図られていた。	○	来年度は、敬老会時を利用しご家族、職員に対し研修を行なっていきたいと考えている。もっと積極的に苑内外の参加の機会を図ってきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者については積極的に同業者の管理者と交流する機会を図ってきた。又、職員についてはわずかではあるが、実践研修の場や他施設研修や逆に研修者受け入れの機会を通しての交流を図ってきた。	○	職員(特にリーダーについて)同士の他施設間の交流の機会が図れる様、管理者として努めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	今年度は、特に定時に業務を終了する事に対し、取り組むことでストレスの軽減を図ったといえる。	○	左記のはたらきかけに対し、現在では定時に終了できるようになってきた。それについては今後も継続していくことで職場に対するストレスの軽減につなげていけると思う。来年度は定期的に個々に面接の機会を設けたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	特に努力の見られる職員に対し、「頑張ったで賞」を設け、ご家族ぐるみで喜んでもらえる商品を提供した。またただら時間延長で業務が継続しないよう、定時で終了するようとくに力をいれ、ストレスの軽減を図った。苑外研修の機会が少なかったがいくらか出席してもらうことが出来た。苑内研修も短時間ではあるが定期的に行なっている	○	来年度は苑外への研修参加や、特に他施設実習を通し、さらに向上心の↑を図れるのではないかと考えている
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに、事前の訪問は必ず行い、十分に聴きとり、個々に応じた話をしながら極力入所についての不安の軽減を図ってきた。	○	左記の通り継続していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記の流れでご家族に対してもご説明し、また意向も十分に聴き取り、納得されてからの入所に至ってきたと思う	○	左記の通り継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでは相談を受けた段階では常に満床であり、即時に受け入れ出来ない状況が続いてきたため、相談時には「その状況に応じた」可能なサービス資源やケアの方法などについて知ってる限りでの説明はしてきた。	○	左記の通り継続していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族が不安を抱えていらっしゃる方については、これまで一日のお試し利用をされた方もいらっしゃる。また場合によっては、ご家族と一緒に泊まれても構わないむねの説明をしてきたケースもある。またご本人の入所までの生活や性格、認知症状など十分聴き取り、その方に応じた馴染んでいただくケアの工夫を図るなどの努力(食事時のマンツーマン対応など)はしてきた	○	今後も左記のように努力をしていく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に食事作り(食材切りや炒め物、盛り付け)や掃除などをして共に喜怒哀楽を感じ、支え合う関係は築かれていると感じます。	○	現状維持
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所の時にご家族としてのつながり、今後も共にご本人を支えて頂く関係については、お話ししている。入所されてからは、ご家族さんには面会や書面にて現状を常に報告しながら一緒にご本人を支えていく関係を図るようにしている	○	現状維持
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	全員の方に書面を通し、月に1度現況報告、また面会時には口頭で、苑でのご本人さんの生活ぶり、またご本人さんにして頂いていることの中に苑の生活のながれを円滑にしていただいて「役割」の一部として占めていることなど伝えると共に、面会に来ていただくご本人さんがいかに喜ばれているかなど極力伝わるようにコミュニケーションを図ってきた	○	現状維持
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の要望により、電話連絡をしてさしあげたり、必要によってはお墓参りや以前お勤めされていた所へご案内したりして支援した。	○	現状維持
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	なかなか上手くしゃべれなかったり、暴言のあるご利用者については、職員が間に入り、利用者同士が関わり合えるよう取り持って、孤立しないよう生活して頂くよう努めている。	○	現状維持

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後の方向性等、必要に応じ、ご相談に応じる等の支援はしてきた。それ以外の付き合いは今までのところはなかった。退所後、ご利用者だった方への訪問はケースによってだがさせて頂いてきた。	○	現状維持
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	週1回のカンファレンスの実行や、日々の現況把握を通し、利用者の思いや希望に沿えるよう努めている。	○	現状維持
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聴き取りや、情報提供によりアセスメントを作成し、カンファレンスを行なうことで対応する職員は把握に努め、それを入所後も継続ケアに生かすようにしてきた	○	現状維持
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の各人の状態を朝夕の申し送り、記録を通し勤務前には必ず把握してからケアにあたるようにしている。	○	現状維持
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的にモニタリング、アセスメントを行い、その結果や現状をご家族に直接お話しし、ご家族、ご本人から今後の生活の希望もお聴きした上で介護計画を作成している。	○	現状維持
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	左記のように行なってきた。又、随時細やかな問題等については、頻繁にカンファレンスを行なってきた。	○	現状維持

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子を日勤者、夜勤者が毎日記録し、現場へ入る前には全員が目を通し情報を共有。月に1度ユニット会議又、頻繁にカンファレンスをし、介護の見直しを実施している。	○	夜勤者との情報共有が今一つ伝わらない事があるため、ユニット会議の参加に取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の面会時に本人の様子を伝えながら要望等を聞く事が出来、支援に活かしている。	○	ご本人の状況などを考え、個別にて要望に応じられるようゆっくりと話が出来る時間を作る。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に2回消防訓練を実施している。又、積極的にボランティアの方に来て頂き、民謡、車椅子ダンス、回想法等行なった。また運営推進会議には毎回地元の民生委員さんに参加して頂いている	○	ご利用者の方各人の希望も取り入れ、地域活動へ参加できるよう取り組みたいが、現実的には難しい課題であると思う。まずは何かきっかけ作りが必要な感じもしている。それについて全職員で話し合うことから来年度はしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特に実施してこなかったが、本人の状況により当苑のデイサービスをご利用していただく支援を2名の方にはして頂いており満足されている。	○	現状維持
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今までのところでは権利擁護についての必要性についての相談を受けたケースはない。又長期的なケアマネジメントについてもこれまで困難な事例はなく、ご家族(本人)に随時将来的な意向についてもお聴きしながら円滑に支援している。	○	まずは運営推進会議を通じてもっと積極的に困難事例等を支援センターに相談を持ちかけていけたらと考えている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時又、随時ご家族及びご本人にかかりつけ医を決めていただき、そのかかりつけ医とは、必要に応じ気軽に電話でまずは上申する等し、早期の対応に心がけた支援をしている。	○	現状維持

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	専門医等の講習会への参加
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	現在は実施はしていないが、協力病院の看護師より医療面での勉強会を来年度より実施する予定。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	現状維持
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	現状維持
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	左記について来年度はもっと積極的に働きかけていきたい
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	現状維持

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の性格を理解して接し、声掛けを行なっている。プライバシーの保護、個人情報規程については苑での研修を通し、全職員が徹底している。	○ 現状維持
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に合わせた説明の仕方、ゆっくりと理解された事を確認しながら話を進め、ご自分で決定される事を優先している。	ご利用者の考えを尊重し、職員の考えばかりを押し付けないようにすることが大切である。ご利用者の話にしっかりと耳を傾けることが必要。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に過ごして頂けることを1番に考え、決して拘束のないように過ごして頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご利用者の趣味(服装、髪型)をよく知り、関心を持ち支援している。好みを知ることにより、アドバイスもさせて頂いている。理美容に関しては、ご希望により当苑の美容ルームを使い外部より派遣していただく美容師の理髪、髪染め等の実施を行なっている。	ご本人の要望があれば出来る限り希望に添いたいと思う。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に出来ることは協力して頂いている。食材切り、食器洗い、食器拭き、おしぼり巻き、盛り付け等日々の日課となり、楽しみにされている方もいらっしゃる。	○ 現状維持
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ホールのテーブル上に少しぬるめのお茶を入れたポットを置き、ご利用者に自由に注いで頂けるようにしてある。おやつは自室に個人で持ち、好きな時に食べていらっしゃる方もある。酒は行事(苑内)、外食時に嗜まれている。週に2回好みの飲み物を選んでいただいたり、おやつは数種類の中からご自分で2種類程度選んでいただくなどの支援をしている	糖尿病の方については、ご家族やご本人との話し合いの上で、おやつ制限をさせて頂き、苑で摂取していただく量をおおむねだが管理をさせて頂いている方もいらっしゃる、今後もこれについては継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意あるも自発性にかけていらっしゃる方についての排尿チェックによる定期的なトイレ誘導や尿器による排泄介助、また排便チェックの徹底により確実な排便コントロールの実施を行なうなど、少しでも自立に向けたケアの実施、的確な排泄の管理に努め、日々健康的に、そして気持ちよく過ごしていただくように努めている	○	現状維持
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限りご利用者の希望に添い、入浴介助をしている。日々入浴チェック表にて管理している。ゆっくり身体を温め、気分が落ち着いていただけるように配慮している。		入浴が楽しみという方が多い事を全職員が理解することが大切。シャワー浴のみでは体が温まらない方への浴槽内につかることの大切さ、ご本人の気持ちよさなど再認識していきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	心配事や悩みがあり、眠れないようであれば話を聞き、不安を取り除き、安眠につながるように就寝前に足浴等を行なっている。	○	現状維持
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人ひとり役割を持って生活して頂く事はとても大切にしており、洗濯たたみ、食事の準備、掃除、趣味等個々にされている。	○	何もしない、楽しみのない生活を作らないように思っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの能力に応じ、保管、支払いをして頂いている。ご家族からの預かり金を有効に使って頂けるよう支援している。	○	現状維持
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行き先を告げて頂き、自由に苑外を散歩される方もいらっしゃる。食材の買い物等職員と一緒に掛けることも多くある。	○	現状維持
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご利用者の希望を聞き入れ、外出、外食を行なっている。(事前に行き先へ職員が出かけ、安全を確認する事もある)	○	外出、外食の企画をきちんと計画、実行する事。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があった場合、日常的に支援している。 (電話はご本人対応)手紙については、本人がかけないと代筆の依頼のある方について代筆してきた。	○	現状維持
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された際にはお茶をお出しし、プライベートな時を大切に考え、できる限り自室にてゆっくりして頂けるようにしている。しかしご家族のご希望によりホールにて他ご利用者達とにぎやかにお茶を飲まれるご家族もいらっしゃる。	○	現状維持
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでおり、現在までしていない。	○	現状維持
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠をしていない。	○	現状維持
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	普段から安全に配慮している。不穏時などにはマンツーマンで関わりを持つ等、プライバシーに配慮しながら安全に気を配っている。	○	現状維持
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一律になくすことはしていない。個人の能力に応じて配っている。さしつかえのない方については職員の見守りのもと安全に配慮しながら使用して頂いている。	○	現状維持
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起こった際には、再発防止報告書に記入し、職員会議で話し合っている。又、危険性のある方についてはカンファレンスにて話し合い、対応に取り組む様になっている。服薬については、服薬されるまで3人がチェックしている。	○	現状維持

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1度消防署より来て頂き、救急法の講習を受けている。又、ユニット内に災害発生(救急)時対応マニュアルがあり、いつでも見て復習できるようにしている。今年、実際に1名の方の心肺停止状態に遭遇し、3名の職員にて蘇生、救急隊への連絡等、そつなく実施し、一命を取り留めた実績がある	○	現状維持
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルが作成してあり、またその際の持ち出す物品リュックも備えつけてあるが、把握しているとまではいえない	○	研修会を行なうなど、把握の徹底を図る
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こりうるリスクについてご家族には十分説明した上でどういう対応を望まれるのか、又施設の考えも持ちかけながら、出来る限り抑圧感の感じられない本人らしさを大切にしたい暮らしがしていただけるような対応策を必要なケースについては話し合ってきた。	○	現状維持
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に全ご利用者の体調を把握するように心がけている。特変があった時は、早期の段階でかかりつけ医に上申している。又、それについてはご家族にも必ず報告、連絡をしている。職員間では看護記録を通じ情報の共有をしている	○	現状維持
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別にチェック表を作成し、薬名、服薬錠数を記入しており、3人の目で間違いないかチェックして服薬して頂いている。個人ファイルに処方された薬の一覧が綴じてあり、いつでも目的、用法、用量について把握できる。	○	現状維持
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	午前、午後と1日に2度全ご利用者に牛乳を飲用して頂いている。状況によってはヨーグルトをお出しすることもある。日々、体操、散歩は習慣となっている。食事は副菜には必ず野菜料理を取り入れている。	○	現状維持
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	基本的に毎食後行なっている。拒否のある方はチェック表を作成して担当を決め、漏れのないようにしている。声かけ、見守り、全介助と1人ひとりに応じた支援をしている。	○	毎食後、全ご利用者の口腔ケアを実施する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食は個々に適量を摂取、副食は栄養士さんの指導に基づき献立を作成している。水分量に関しては、どうしても水分が摂りにくい方のみ水分チェック表にて管理している。	○	月に1度体重測定を行い、管理している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、ノロウイルスには手洗い、うがいの徹底消毒(手)の対策を行なっている。(面会者も同様)疥癬には週に1度シーツ交換、布団乾燥機にて対処し、入浴時に皮膚の状態を確認している。	○	現状維持
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の台所掃除の徹底。生野菜については消毒作用のある水での洗浄の実施、調理する職員、ご利用者も手洗い、消毒をしてから食材に触れている。	○	2次感染を防ぐ。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先が広くなっており、車椅子の方も車の移乗に負担のないように車寄せがある。スロープ、手摺りも設置してある。	○	車を玄関先に駐車(外出)する為、玄関から出てこられる方に十分に注意を払うこと。(全職員徹底している。)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の掲示板に季節、行事に合わせた飾り物などをし、雰囲気も明るくなっている。とても静かな場所での建立であり、皆様穏やかに過ごされている。	○	現状維持
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にテレビ、ソファ、コタツ和室とあり、ご利用者は個々にお好きな場所にてくつろぎ、雑談を楽しまれている。	○	現状維持

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には今まで愛用されていた家具を取り入れられてご自分らしさの感じられるようにお話ししており、大半は個性のある居室にしておられる。又、ご利用者の状態に応じて、ペットなどの配置の工夫も心がけている。	○	現状維持
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、全居室の換気を行なっている。又、昼の共有の間については、早朝と掃除の際の換気を行なっている。換気を拒否される方もいらっしゃるが、リビングに出ておられるときなど、時間を決めて換気をしている。	○	現状維持
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	随所に手摺りが設置してある。又、廊下、リビングは広く、ゆったりと安全に行き来できる空間になっている。	○	現状維持
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各人の能力に応じた家事内容を日々の生活に取り入れて行なって頂くようにし、少しでも自立、自信につながる様に支援している。	○	現状維持
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外には畑、ハウスがあり、職員と一緒に野菜の収穫や草取りなど行っている。又、テラスがあり、リビングから出入りしやすく、春～秋にはお茶会、体操などに活用している。花のプラントナーなどもあり、一部のご利用者がお世話をされている。	○	現状維持

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者さんと一緒に食事作りをしたり、食材（野菜）の収穫に苑内の畑に行ったりしている。また食事の献立にはご利用者さんの嗜好をお聴きし、なるべく取り入れるようにしている。外出や食材の買出しに出かけることも多く、外出先は、ご利用者さんと一緒に、お茶会時などに話し合っって企画するようにしている。また日常的に行なっているレクリエーションでは楽しみにしていらっしゃるかもおられ、ゲームなどしているうちにご利用者さんのほうから「こうしてみよう。こんな風にしてみたら？」などアイデアも出ることが多い。またお茶会でも週に2日、ご利用者さんの好みの飲み物をえらんで頂くなど、できるだけご利用者さんの好み、ご意見を取り入れるようにしている。